歴史地震
第33号 274頁

[講演要旨]

三重県五ヶ所湾湾口集落での東南海地震の体験聞き取り調査

坂本隆彦（枚方市），川口ちづほ（三重県南伊勢町），山本徳久（多気郡明和町），
小佐野喜美恵（廬），澤村清也（大阪市東淀川区），田中幹也（伊勢市），
畑秀継（三重県立志摩水産高校），山本正和（奈良中央市場）

§１．はじめに

東南海地震が発生してから70余年が経過した．地震が発生した当時は、太平洋戦争のさなかであり，地震が発生したのが開戦記念日の前日にあたり，新聞報道で大きくは取り扱われなかった。それでも名古屋や伊勢市といった都市の被害の情報は報道された．しかし，今回報告する三重県の五か所湾湾口に位置する南伊勢町（かっては南勢町）の南海地区（湾の西側にある迫間浦，相賀浦，礫浦）や宿田曽地区（東側の宿浦や田曽浦）は伊勢からも遠く（直線距離で約20㎞），人口も少なく、多くの人の関心をひかず，被害状況など全く報じられないままおわった．両地区の地震被害をついては南勢町誌にも記録はない．このような状況に鑑み，南海地区の南海中学校同窓生有志が，地域をまわり，およそ80歳以上の高齢者のお宅に伺い東南海地震の体験を聞きとり，まとめた．南海地区や宿田曽地区は、漁業が中心で農業を営む人もおられる．海水が汚れていなかったころには真珠養殖が盛んであったが今はもうおこなわれていない．

§２，東南海地震発生当時の情勢

昭和１９年１２月ごろと言えば、太平洋戦争さなかで敗色が徐々に濃くなっていく頃である．若い男性は兵隊として戦地に赴き，若い女性は挺身隊として名古屋（富田）付近で働く人が多かった．また疫痢が流行し、罹患して地域に戻って静養されていた人もいた様である．

§３，聞き取り調査ができた人数

迫間浦集落が、男２人、女子２人、相賀浦男３人、女子３人，宿浦，女１人，田曽浦，男子１人、伊勢市女子１人、名古屋男子１人　計１５人

§４，地震についての聞き取れた体験談

・地震の継続時間が長かった（5分ぐらい継続したように感じた）
・二階に居て前の家に転げていくのではないかと思うぐらい強いゆれであった．振動が強くて階段がおりられなかった，
・屋根から瓦がおちたこと（相賀浦の農協），
・振動で橋が落ちた（2件）
・相賀小学校の二宮金次郎像が上下に折れてこわれた．
・運動場のグランドで地割れがたくさんできていた．
・教室の窓に座っていて外に振動で放り出された．
・農業用の納屋が幾つかつぶれていた（迫間浦）．
・水槽に貯めていた水が吹きあがった．

§５津波について聞き取れた体験談

・すごい勢いで海水が退いていった．
・迫間浦で船溜まりの水が無くなり底が見えていた．
・引き波があってすぐに押し波がきた．
・1mの高さの真っ黒い波が入ってきた．
・相賀の分院（診療所で標高の高いところにあった）から見ると東北地方であったあの津波のような光景であった．
・相賀郵便局付近（海岸すぐそば）の近くの家では天井近くまで浸水した．・箪笥の２段目まで浸水した．
・津波はサーと引いてゆき，見る見るうちに上がってきた．ものすごい勢いで海水が退いていった．防火水槽の水があふれていた．
・津波で農協の倉庫が流された．
・地震後30分後の時，海面がブクブク泡を立てた．
・港で船の修繕をしていて，山の方に持っていかれた．
・海岸地区にいた少女が数十ｍ上流まで流された．
・祖父が津波に遭遇し、階段下から助け上げられた．
・相賀の家の中でハゼなどの小魚が見つかった．
・汚物が畳の上に残されていた（当時は汲み取り式）．
・漁業組合の室内の神棚の上に大きな魚がいた
・道路に魚が上がった．

文献　改訂増補南勢町誌編集委員会（2004）改訂増補南勢町誌, 737ｐ.